

2001年のJID賞

選考委員長 大野美代子

2001年のJID賞は基本的に2000年4月から2001年3月までに完成したプロジェクトを対象としている。相変わらずの経済状況のきびしい折であるが、今回も70点の応募があり、〈IT化〉〈バイオテクノロジー〉〈二世代のホームオフィス〉〈環境〉等、社会的テーマを反映した優れた作品が見られた。厳正な審査の結果、後記の入賞作品が選ばれ、JID賞展は今年の1月にOZONEで開催された。また授賞式は2002年 NEW YEARS PARTYにジョイントするかたちで行われた。

□審査と講評

応募総数は70点で、その内訳はインテリアスペース部門50点、インテリアプロダクト部門6点、インテリア研究・業績・著作部門2点、学生部門12点である。

例年の事ながらJIDメンバーの応募の少ないこと、家具等のインテリアプロダクト部門の弱いことが惜しまれる。

審査はまずJIDメンバーの選考委員によって書類選考が行われ、その結果選出されたものに複数の委員による現地調査、現物調査が行われた。続いてゲスト審査員を加えて最終審査を行い、下記の通りに選定された。残念ながら、大賞及びインテリア研究・業績・著作部門には該当作品がない。

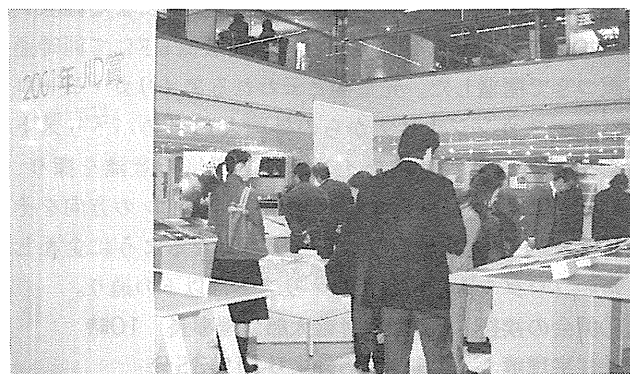
〈各賞の講評〉

●インテリアスペース部門

部門賞の4作品は、現代の社会的なテーマを反映した優れた作品である。

部門賞：東京証券取引所「東証アローズ」

東京証券取引所の旧株券売買立合場のIT化に伴う再生計画。株式市場の透明性の象徴として、マーケットセンターを巨大なガラスシリンダーで囲み、大型表示装置を設置。テレビニュースに日常的に映し出されるこの光景は、かつての立合場の喧噪と、コンピューター監理による静寂さの対比が強調され、時代の流れを象徴する。



JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

2002

No.217

2・3

「目次」

● 2001年のJID賞	1
● IPEC21国際デザインフォーラム	2
● JID賞贈賞式&ニューイヤーズパーティー	4
● e-mail news 開設にあたり	4
● 平成13年度第3回理事会報告	5
● 平成13年度第4回理事会報告	7
● 役員・選考委員選挙報告	9
● 選挙当選辞退者よりのコメント	10
● 樋口 治さんを悼む	10
● JID NEWS 関東	11
● JID NEWS 中部	12
● JID NEWS 関西	13
● JID NEWS 九州	15
● 新入会員の紹介	16

部門賞：Blue Genes・クロンテック バイオサイエンスラボ
21世紀の先端産業と言われるバイオの研究所である。そのエントランスホールでは、企業のPRを兼ねて、先端技術を巧みにイメージ化することに成功。地味な実験研究施設にインテリアデザインの光を当てた企業の先見性とデザイナーの力量が評価された。

部門賞：兵庫大学健康科学部

キャンパスの2棟の学舎に挟まれた中庭と2棟の廊下を一体化した半屋外空間。緩やかに流れる水路を基軸に陽光、水、風、緑、音を感じとる格調の高い空間づくりがなされている。

部門賞：春日部ダブルハウス

二世帯住宅のホームオフィスを兼ねた住宅。施主の住ま

いに対する意識の高さに加えて、設計者とのコミュニケーションの良さが設計に活かされ、家族がつかず離れず、お互いの気配りの感じられる、暖かい生活の場づくりに成功している。

●インテリアプロダクト部門

着眼点は良いが、製品としての完成度にやや欠けるため、部門賞には届かず1作品が奨励賞を受けた。

奨励賞：RECO（レコ）ワークテーブル

オフィス等の仕事用テーブルを、オイル拭き取りのパーティクルボードとアルミ型材で構成。パーティクルボードとアルミのリサイクル性に注目したこと、素材の持つ表情の豊かさを引き出したこと、サイズに対応しやすいこと等は評価できる。

●学生部門

2点が部門賞を受け、1点が奨励賞を受けた。

部門賞：See Through ミ Side table

「かすみそう」「薄明（はくめい）」「薫風（くんふう）」
アクリルの透過性を活かし、独創的なテキスタイルと組み合わせた作品が爽やかで魅力的である。

部門賞：蕾（ツボミ）

金属プレートを折り曲げてツボミの形に成型し、布地を組み合わせた楽しい作品である。

奨励賞：easy operating chair

金属の折り畳み椅子の機能に正面から取り組んでいるが、少しコンパクトにまとめると良くなる。

□2001年JID賞展

JID賞展は2002年1月17日～1月29日までの2週間、OZONE 6Fのロードサイドスクウェアで開催された。昨年、一昨年はOZONEの全面的な協力を得て、ギャラリーで開催されたが、今回はJIDが自力で、しかも他のブースの中間に位置するオープンなスペースに於ける会場づくりである。予算のないところを美しく、格調高くまとめたのには選考委員の岩倉氏の力量に負うところが大きい。入場総数は1540人、1日平均128人、会場運営について白石氏やユース会員、関東事業支部の方々のご助力に感謝したい。

□JID賞授賞式

2002年1月24日、授賞式はOZONE 8FでNEW YEARS PARTYの前に総務委員会、組織委員会の協力を得て行われた。川上信二氏の司会により、木村理事長より受賞者に賞杯が手渡された。清水忠男氏と千葉大学学生の協同製作によるオリジナルの杯である。受賞者を代



表して近藤氏のスピーチがあり、ゲスト審査員の勝尾氏からは講評をいただいた。欠席されたいま一人のゲスト審査員、藤森氏からは今回のJID賞について文書で次のようなコメントをいただいている。

「全く新しい提案というよりは、微妙な差異の提案に向かってるように見受けられる。これは建築からIDまで全てのデザイン分野で共通の現象のようです」

授賞式の後のNEW YEARS PARTYには、受賞者の若い人々も加わって、和やかな良いパーティーとなった。

□今後のJID賞

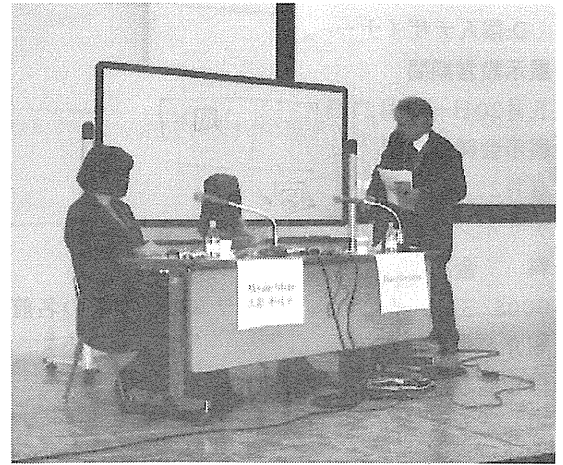
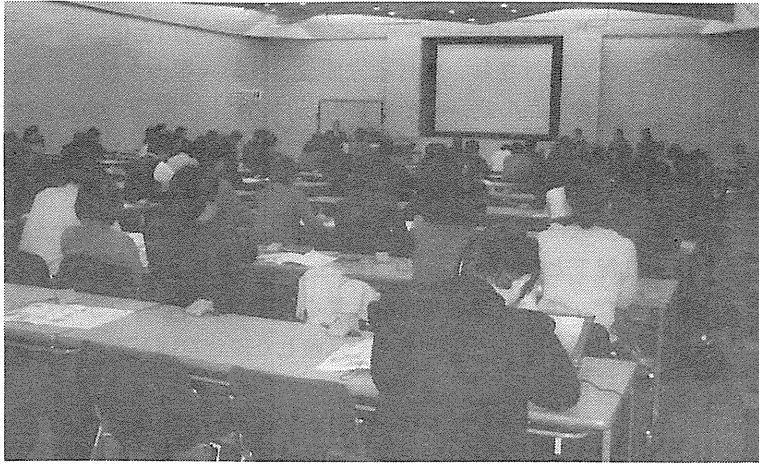
JID賞はセレクトされるもののレベルが高いと評価されながらも、JID共々、社会的な認知にやや欠けているのではないだろうか。OZONEのJID賞展も、社会に対するPRの一つの場であろう。また、プロジェクト毎の受賞が可能となり、部門も増えて賞の数も多くなっている。是非、JIDメンバーは積極的に応募していただきたいものである。教職に就いている方々には、学生の応募をお勧めいただきたい。このような社会的な状況の折こそ、デザインが活性化の糸口になるように、JIDが、またJID賞がその役割を担えないものであろうか。

国際委員会からの報告 IPEC21国際デザインフォーラム JID国際委員会委員長 藤村 盛造

日本インテリアプランナー協会協議会主催による昨年開催された第1回IPEC21（11月19日～11月22日）にJIDは協賛した。

11月20日 JID国際交流委員会運営企画による国際デザインフォーラムをビッグサイト会議棟6Fにて同時通訳つきで開催した。先進国と云われるアメリカ・ヨーロッパ・スカンジナビアからの外国人11名のパネリストを招き各国が取り組むインテリア環境の意識を探り、21世紀に我々が目指すインテリアデザインの方向をそれぞれの立場で考えるフォーラムとなるように企画した。プログラム、司会・パネリストは以下の通り。

- ①開会の挨拶 JID木村戦太郎 理事長 10時
- ②住宅環境 10時05分より11時35分



入場者 約65名

司会 川上玲子

パネリスト

マニュエル・タルディッツ (仏) 建築家・みかん組代表
 プレベン・ボンディダン (デンマーク) デーニッシュインテリア社長
 ケン・ホリ (カナダ) トレードワークスオーガナイザー

③オフィス環境 12時20分より13時50分

入場者 約110名

司会 李 泰久

パネリスト

ナイジェル・モティマー (英) ハーマンミラー・ジャパン社長
 エルビン・ホルト (スイス) スイス ジロフレックス社 社長
 シェル・フォルナンダー (スウェーデン) 広告代理店テキスト社 社長

④教育環境 14時00分より15時30分

入場者 約70名

司会 梶田尚令

パネリスト

クリスティーン・ペレ (仏) 厚木市教育審議会 委員
 テイモシー・ジェーン (米) スタジオエイジ・語学教師
 ゲルハルト・シュタイネバッハ (独) 東京横浜ドイツ学園教師

⑤公共環境 15時40分より17時10分

入場者 約80名

司会 大野美代子

パネリスト

アンリ・ゲイダン (仏) 代理 金子文子 建築家 C・R・C代表
 イエンス・サーゲン (デンマーク) 人文社会学研究生
 ユルク・ダバツ (スイス) マルチメディアアーティスト・画家

⑥総括まとめ 17時10分より17時45分

入場者 約80名

島崎 信 インテリア学会副会長・武蔵野美大教授

今回の国際フォーラムでは健康・快適性をテーマにインテリアデザイン環境における様々な意見を北米、ヨーロッパ、スカンジナビア諸国のパネリストから引き出すことが出来た。各国の現状の意識を探り、我々が21世紀にはどのように対処し収斂させていくべきかを相互に考える機会をつくる事は大切であり、更に次期IPEC21に繋げていきながら、インテリアデザイナーやプランナ

ーの果たすべき役割が国内のみならず国外とも協調し地球環境を考えていく事が我々の責務と考える。今回JID/JIPAT国際委員会が発案・企画運営されたものであるが国際交流委員会、並びに司会役を快くお引き受けくださった参加者の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。お蔭様で延べ400名余りの参加者があり成功裏に終了した事をご報告申し上げます。

第1回北京国際デザイン展 (2002年5月22日より5月26日) およびデザインフォーラム・参加のご案内

財団法人国際デザイン交流協会からJID事務局へ入った報告書の連絡によると、中国政府は2008年のオリンピック開催に向け、①科学技術のオリンピック、②人類のオリンピック③グリーンオリンピックを開催する考えを明らかにした。WTO加盟により中国経済発展のキーはデザイン界へ入る道が最も重要な資源と考えていて、デザインビジネスを進める事は新技術導入と一方では国内の創造力を高め科学技術移転を拡大する最も早道であるとしている。

主 催

科学技術庁・外商・経済協力庁・教育省・情報庁・中国国際貿易振興会・他

後 援

中国テレビ

主催委員会

北京科学技術委員会・北京芸術学校・北京工業デザイン振興会・北京工業デザインセンター

展示会場所

北京中国建築文化センター

展示会内容

工業デザイン・インテリア・環境デザイン・装飾アートデザイン・グラフィックデザイン・ネット・マルチアートデザインなど

展示会への参加

A:デザイン団体・組織

B:デザイン学校

C:調査機関

D:個人デザイナー

展示設営期間

5月20日～5月21日

展示会開催期間

5月22日～26日

デザインフォーラム 5月22日～5月25日

料 金

900\$/3x3 m² 展示プログラムの出展者の名前と写真紹介が含まれる。

申し込み締め切り 3月20日

申し込み登録は3月15日までに

希望者はFAXまたは郵送、或いはE-Mailにて申し込み、申し込み確認済み書と展示案内を受け取ることとなる。確認証受領1週間以内に展示費用を振り込む。

展示の相談先

<http://www.BJTIDI.com>

E-mail: Tidir@A-1.net.cn

事務局: room 708, No.2 building of the Design Mansion, 8 Hui Xin Dong Jie, Chaoyang Beijing 100029 CHINA

Tel: 010-8464-7634

Fax: 010-8464-7634

宛名: Zhan Renlum, Zhao Xia

2001年JID賞贈賞式&JID2002 ニューイヤーズパーティー

本部総務委員会委員長 高川恵三郎

本年1月24日(木)新宿パークタワー8階「クラブスクエア」にて、2001年JID賞贈賞式&JID2002ニューイヤーズパーティーが開催された。総勢100名近い参加者があり、受賞者、ご来賓、賛助会員の皆様方とJID会員の懇親を深めることができた。

2001年JID賞贈賞式は、選考委員会の川上信二氏の司会で進行され、木村戦太郎理事長の挨拶からはじまり、入賞作品の紹介、受賞者へのトロフィー授与、受賞者代表の近藤康夫氏のスピーチ、審査委員紹介と進んだ。

続いて、大野美代子選考委員会委員長より、講評があり次のように述べられた。「相変わらずの厳しい経済状況下とはいえ、応募点数は、昨年より上回り70点あった。残念ながら今回も大賞を出すことができなかったが、現代の社会的なテーマを反映した優れた作品がいくつか見られた」

続いて、ゲスト審査委員の藤森照信氏、勝尾岳彦氏より講評をいただき、滞りなく贈賞式が終了した。

JID2002ニューイヤーズパーティーは、本部組織委員会委員長伊藤公一氏と岡部文絵氏の司会で進行され、木村戦太郎理事長の主催者挨拶からはじまり、経済産業省製造産業局デザイン政策チーム長の中山 泰様よりデザイン政策に関するご祝辞をいただいた。

続いて、ご来賓様のご紹介の後、日本ディスプレイデザイン協会会長高見 慧氏が挨拶を述べ、同氏の音頭で一同乾杯し懇親の宴となった。

歓談中、関西事業支部主催のECHO賞東京地区の受賞者表彰が支部長の八十常充氏の司会で進行され、入賞作品の紹介、受賞者表彰が行われた。

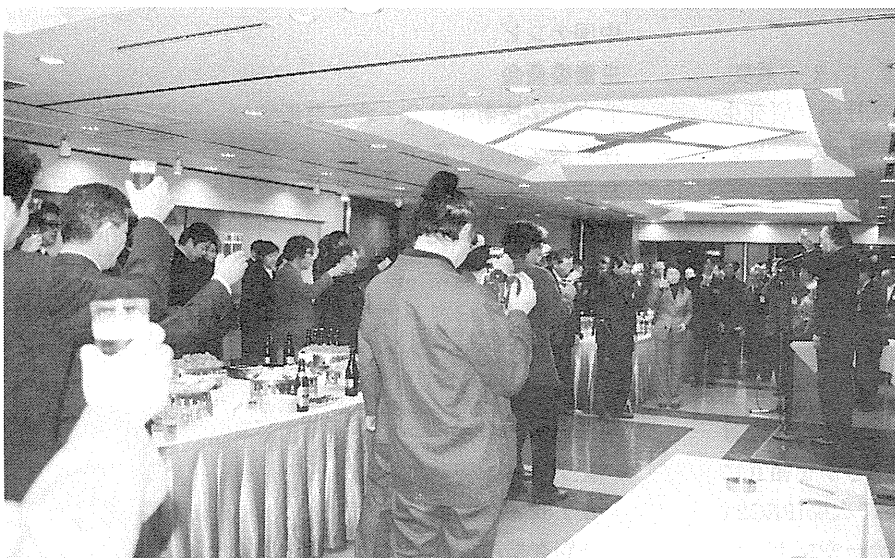
続いて、新入会員の方より、JIDへの抱負を述べていただき、会場が盛り上がったところで、阪井良種副理事長の閉会の挨拶で滞りなくパーティーが終了した。

「e-mail news 開設に当たり」

JID理事長 木村戦太郎

JID会員の皆様、相変わらずの厳しい状況ですが、如何お過ごしですか。

昨年は、変革の世紀を象徴するかの様な、同時多発テ



祝辞をのべる経済産業省の中山氏

口に揺れた1年でした。今年も同様の荒れ年とも予測されており、この荒波を乗り越えるためには相応の覚悟と対応が求められる筈です。JIDも協会の命運を掛けた組織の見直しや活動の活性化が必要であり、そのためにも会員相互の活発な情報交換は不可欠と言えましょう。この度のJID e-mail newsの開設は、將に時を得た企画です。

リスト送信を利用すれば大量情報の瞬時同発信が可能であり、支部間の垣根も低くなりましょう。JIDも参加するD-8でも共同ウェブサイトの立ち上げを企画しており、ITによる幅広い交流やコラボレーションが期待されます。

素早い情報アクセスを可能とするJID e-mail newsを是非ご活用下さい。

JID本部情報委員会からのお知らせ

・・・JIDホームページについて・・・

昨年夏に各府省は、所管公益法人に対し、最新の業務及び財務等に関する資料をインターネットにより公開するよう要請を行いました。これに伴いJIDのホームページにもこれらの情報を掲載する準備を行っています。この機会にホームページのデザインや内容の改訂も計画しています。各委員会がすぐ情報を載せられるように、掲示板を作成したり、より多くの会員の方に活用していただけるよう進めています。改訂に関する御意見がありましたら、情報委員会HP担当までぜひ御連絡下さい。

インターネット環境は以前より、高速化、低価格化と格段に便利になってきました。この機会に多くの会員の方に、自分のホームページを持ち、世界に情報を発信していただきたいと考えておりますので、ぜひJIDホームページをご活用下さい。

本部情報委員会HP担当 安松一雄

E-mail: tyasumat@d1.dion.ne.jp

・・・JID e-mail newsの今後の予定について・・・

今後の予定

1 ホームページの改訂と同時に、会員以外のJID e-mail newsの受信者をホームページを通し受け付けます。

2 正会員・賛助会員の情報発信を行います。(予定6月1日より)

昨今インテリア関連の関心が高まり、関連雑誌等の種類の増加、TV等による特集が毎日のように放映されいます。

このような状況から見て、インテリアのプロのJID会員からの、一般の方々への専門情報の発信は、今後多くのインテリアに関心を持っている学生、一般ユーザーにとっても、価値あるモノと思われ、また会員の方々の個々の情報発信に、大きな手助けになると思われます。是非積極的に活用してください。

このような観点から今後ともJID e-mail newsを発展さ

せて行きたいと考えています、またまだJID e-mail newsの受信手続きされていない会員の方をご存じでしたら、ぜひお勧めください。

今後の予定、手続き等は順次お伝えします。

本部情報委員会 インターネット担当 山本英嗣

・・・ホームページ・JID e-mail newsに対する御意見を下記にお寄せください。・・・

本部情報委員会 インターネット担当 山本英嗣

E-mail: fsd-hy@mtj.biglobe.ne.jp

平成13年度第3回理事会報告

①会議名：平成13年度第3回理事会

②日 時：平成13年9月28日(金) 13:30～16:30

③場 所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワー8F

④出 席：(理事長) 木村戦太郎

(副理事長) 阪井良種、山崎 晶

(理 事) 秋山修治、泉 修二、川上玲子、
吉良ヒロノブ、佐々木恵子、
須長壮太郎、関 里繪子、
中川帛子、長岡貞夫、山永耕平、
山本棟子

(委任出席) 喜多俊之

(監 事) 川上信二、中川千年

⑤議 事

峰尾事務局長より「理事総数15名中、本人出席14名、委任状出席1名で本理事会は成立した」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(長岡)

建築と暮らし再発見PARTⅡ東山田郷土資料館見学の実施。建築と暮らし再発見PARTⅢ川越見学会を計画。JID関東ユースの活動報告等を資料により報告、その他長岡理事よりブラジルインテリアデザイナー協会訪問の話があり会員数5300人平均年齢38歳でレベルは高いとの報告。

◆中部事業支部(関)

CCDO総会参加、及び7月度例会の実施。明治村ライオン館会員展具体案及び第4回ものづくりのデザインを採ねて等を検討、名古屋デザインフェスティバルデザイン展等の予定資料により報告。

◆関西事業支部(佐々木)

ECHO賞業務委託契約と応募状況、本部国際(委)藤村委員長との懇談会でIFI南アフリカ参加の件、及び外国人来日に対する関西マップ作成等、他団体等の交流に関して、今後の予定として本部教育研究(委)Aのカリキュラム案検討、その他「日本の空間デザイン

2001」をJID、DDA、SDA、JID、KIPA共催で開催、10月20日に4支部合同交流会（支部長会議）等を資料により報告。

◆九州事業支部（山永）

北九州例会として「山口きらら博」を全国店舗設計装備協同組合、日本商業施設士九州支部、北九州市市民団体「星降る街を創る会」との見学及び交流を実施、福岡デザインリーグ「部会」、「実行委員会」に参加。その他支部での情報交換に支部独自のホームページによる会員間の情報交換を検討等を資料により報告。

◆総務・組織委員会（秋山）

IDカードの更新と発送を8月初旬に完了。JIDパンフレット・入会申込書等の改訂、また会員拡大キャンペーンを計画、各事業支部主導の方向で目標を掲げ実行に移していくこと、またそれに対する理事会のアドバイスを求める旨、資料により報告。

◆国際・交流委員会（川上）

第3回JID meet the world「ミラノの新しい風」開催、喜多・阪井両理事、司会・小野由紀子会員で実施、約65名の出席で盛況であった。IFI総会、南アフリカは理事長を含め6名参加。IPEC21国際フォーラムは、11月20日ビックサイトにてJID/JIPATの企画・運営で行う。その他10月26日に香港デザインミッションがJID及びOZONEに来訪交流予定等を資料にて報告。

◆情報委員会—インターネット（吉良）

ホームページ改訂・e-mail通信開始スケジュールの検討と担当者決定。各事業支部ホームページの担当者決定、中部（熊谷正信）、関西（安藤真吾）、九州（松本豊）。その他経済産業省よりのインターネットによる公益法人のディスクロージャーに対する対応を予算を含め検討する旨資料にて報告。

◆情報委員会—出版（吉良）

FROM-JIDについてテーマ1. 地球環境とインテリア、2. インテリアデザインとエコデザインとし、後編テーマとして環境とインテリアエレメント（人にやさしい、地球にやさしい素材）等で進めていく。頁数は抑えたい旨資料にて報告。

◆情報委員会—JIDニュース（吉良）

JIDニュース6・7月号(215号)6月末発行、次号10・11月号(216号)10月末発行予定で各委員会及び各事業支部に積極的寄稿をお願いしたいと報告。

◆教育・研究委員会A（山崎）

第5・6回委員会を実施、カリキュラム・テキストの検討と作成及びシンポジウム計画打合せ。岩田西小、教育大付属平野中の実験教育を予定。尚シンポジウムは11月17日に大阪にて実施予定と資料にて報告。

◆教育・研究委員会B（須長）

研究活動テーマの内容、及び進捗状況を資料にて説明。来年ホームページにて掲載予定と報告。

◆教育・研究委員会C（山本）

Humanizing Design 展の検討するが、毎年は難しい。岡山県川崎医療福祉大学での展示会は今年度見送りとした。今後セミナーについても継続検討していく旨報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

委員の増員、アンケートの分析・まとめの予定を資料にて報告。

◆事業委員会（阪井）

オリジナルMY CHAIRを創る企画の説明。ツアー14年2月26日～3月2日、日本セミナー（パンタンデザイン研究所）募集要項作成及び講師募集開始を概算収支案と資料にて報告。

◆会員プロモーション委員会（中川）

JID主催の第1回OZONE展を企画、都市基盤整備公団協賛による「インテリアデザイナーとつくる住まい～スケルトンインフィルによる集合住宅への提案」展（仮称）を決定した(2002年2月)、その他OZONE展、ファイル設置等をワーキンググループにて計画。尚今後OZONEとJIDとの交渉にプロモーション委員会が橋渡しを行う等資料をもとに報告。

◆選考委員会（泉）

JID賞は8月末をもって公募を締切、66点の応募があった。9月末に第1次審査を行う予定と資料にて報告。

(2) 平成13年度収支状況報告（8月末日現在）

平成13年度収支状況報告（8月末現在）について事務局より報告。

(3) 役員及び選考委員選挙スケジュール変更について
事務局より資料にもとづき説明。

(4) IFI総会報告

JID代表、木村理事長、中川理事より報告があり、9月15日～16日に南アフリカ、ヨハネスブルク郊外で総会が行われ出席国20カ国、委任状5団体、以上25団体で総会は成立した。又次期2003年開催地はインドに決定、その他2005年IFI、ICOGRADA、ICSID3団体合同会議開催はデンマークに可決。尚詳細についてはJIDニュースで報告の予定。

(5) その他

・訃報 井上 猛（関東事業支部）

平成13年7月29日没 享年98歳

・次回理事会予定

平成13年度第4回理事会 2001年11月29日（木）
13:30～16:30

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 商業施設技術者・団体連合会代議員推薦の件

議長が下記7名を推薦。承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

金子重春、斉藤武行、斉藤正昭、立原俊郎、
藤田哲也、峰尾 武、安松一雄

第2号議案 追加予算申請の件

教育・研究委員会A及び選考委員会

1. 教育・研究委員会Aについては極力節減につとめるが、他の教育・研究委員会の未使用資金の援助等を求めるほか不足については全体予算の中で考慮する。

2. 選考委員会の展示、DM費用等については節減につとめるが、不足部分についてはこれも全体予算の中で考慮する。

議長は以上につき承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

第3号議案 選考委員会委員定数、及び任期に関して

定員、任期につき審議、昨年より外部審査委員2名を入れたため、現在の定員10名を次回選挙より8名とする。任期については継続審議とし平成15年選挙実施までに決定。

議長は以上につき承認を諮り、異議なく承認された。

第4号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記8件について説明。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「華胥の夢博2001」

2001年10月5日(金)～8日(月)

主催 (財)大川総合インテリア産業振興センター

◎「あかりメッセージ2001」

2001年8月22日(水)～28日(火)

主催 (社)日本インダストリアルデザイナー協会・東日本ブロック

◎「インテリアプランニング賞2002」

2001年12月～2002年9月

主催 (財)建築技術教育普及センター

◎「第7回木造建築物に関する研究会」

2001年10月12日(金)

主催 (財)日本住宅・木材技術センター、日本集成材工業協同組合

◎「第21回インテリアファブリックスショー JAPANTECH 2002」

2002年1月23日(水)～26日(土)

主催 (社)日本インテリアファブリックス協会

◎「てつそん2002」

2002年3月22日～24日

主催 てつそん2002 実行委員会

◎「建築・建材展 2002」

2002年3月5日(火)～8日(金)

主催 日本経済新聞社

◎「Japan SHOP 2002」

2002年3月5日(火)～8日(金)

主催 日本経済新聞社、(財)店舗システム協会

第5号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記入退会5件について説明。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・入会(2件)

平井 純(関東)推薦人:秋山 修治・峰尾 武

大館 愛子(関東)推薦人:福田 友美・峰尾 武

正会員・退会(3件)

藤江 健・宮嶋 恵美子・古藤 司郎(関東)

第6号議案 名誉会員推挙承認の件

事務局長が古藤司郎氏の名誉会員推挙を説明。議長は承認を諮り、異議なく承認された。

第7号議案 議事録署名人選任の件

議長は、川上玲子、山永耕平両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

〔 平成13年度第4回理事会報告 〕

①会議名:平成13年度第4回理事会

②日 時:平成13年11月29日(木) 13:30～16:30

③場 所:JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワー8F

④出席:(理事長) 木村戦太郎

(副理事長) 阪井良種、山崎 晶

(理 事) 秋山修治、泉 修二、川上玲子、
吉良ヒロノブ、佐々木恵子、
須長壮太郎、関 里繪子、
中川帛子、長岡貞夫、山永耕平、
山本棟子

(委任出席) 喜多俊之

(監 事) 川上信二、中川千年

⑤議 事

峰尾事務局長より「理事総数15名中、本人出席14名、委任状出席1名で本理事会は成立した」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(長岡)

10月12日:建築と暮らし再発見「川越見学会」実施、18名参加(事業推進委)。11月10日:美濃あかり展(組織委、JID関東ユース)報告。11月12日:「バリ島の魅力と生活デザイン」セミナーを講師山岸征史、吉良ヒロノブ会員で実施(事業推進委)等を資料にて報告。

◆中部事業支部(関)

10月1日:「会員展」第3回実行委員会開催。10月18～21日:名古屋デザインフェスティバル、エコデザインパネル展実施。10月24日:10月度連絡会JID事業支部交流会報告他実施。11月17日:11月度連絡会及び秋の交流会第4回「ものづくり探索」三重の実施等を資料にて報告。

◆関西事業支部(佐々木)

9月21日:ECHO誌18号編集他(情報部会)。10月29日:賛助企業/ACT-kansai/JID会員交流会について討議(組織部会)。10月1日:ECHOプロジェクト立ち上げ(特別部会)、11月2日:ECHOプロジェクト、

府中デザイナーboxエントリー説明会実施22名エントリー。11月15日：第2回ECHO賞デザインコンペ審査会実施。10月12日：理事会報告、委員会報告他実施（支部運営部会）。10月20日：第1回事業支部合同交流会をコクヨ迎賓館にて実施（総務部会）。その他本部教育・研究委員会Aインテリア実験教育に参加等を資料にて報告。

◆九州事業支部（山永）

9月18日：福岡デザインリーグ第6回「賞プレゼンテーション事業部会」参加、経済発展賞、福岡のデザイン100、まちがいデザインについて骨子、募集要項等討議。11月8日：第3回「企画委員会」参加、事業計画予算討議及び第2回交流会参加。11月7日：支部次期役員選挙実施等を資料にて報告。

◆総務・組織委員会（秋山）

組織・総務合同委員会を実施、会員拡大キャンペーン50名の入会を目標で行う予定。各事業支部、委員会に推薦を依頼、各役員に協力を要請をした。

◆国際・交流委員会（川上）

11月19～21日、IPEC21が東京ビッグサイトで実施。11月20日、国際交流委員会企画による国際デザインフォーラムを実施「住宅環境・オフィス環境・教育環境・公共環境」についてJIDメンバーの司会と海外からのパネリストにより実施され多くの参加者により盛況であった。また展示会場にはJIDブースを出展し活動内容の紹介を行った。その他10月26日に香港貿易発展局のデザインミッションがJID及びOZONEに来訪、交流した旨等を資料にて報告。

◆情報委員会—インターネット（吉良）

「JID e-mail通信」について、一定の手続きを経て希望会員に通信開始の広報をJIDニュース、HPに常時掲載を検討中。その他平成14年度より経済産業省の公益法人ディスクロージャーへの対応を検討中と資料にて報告。

◆情報委員会—出版（吉良）

「FROM:JID」出版に当たって、環境問題についての論文執筆者の依頼、コラムのボリューム、素材情報に対する執筆者等検討及び資料の整備を実施中と報告。

◆情報委員会—JIDニュース（吉良）

JIDニュースの今後の発行計画として、2002年2・3月号（217号）を1月末原稿締切で2月末発行の予定と報告。

◆教育・研究委員会A（山崎）

10月13日、11月10日、実験授業及びシンポジウムの打合せ。10月23日、大阪教育大付属平野中学にて実験授業を実施。10月30日、東大阪市立岩田西小学校にて実験授業を実施。11月17日、シンポジウム「総合的な学習の時間におけるインテリア教育の可能性」を実施好評であった。今後資料をまとめインテリア学会等で発表と報告。

◆教育・研究委員会B（須長）

研究活動テーマ、「日常生活周辺におけるインテリア現象・言葉等をシーンとして抽出して、インテリアの今日の状況を考察」に具体的な聞き取りや、アンケート等进行分析、2月にホームページ等に公開していく旨報告。

◆教育・研究委員会C（山本）

Humanizing Design 展を継続していく方向で検討中（展示主旨及び内容・助成金等調べつつ検討）。又プロモーション委員会との連携をも考えOZONE2002年イベント等を検討する旨報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

アンケートの分析とまとめを進める予定で、主要な部分についてJIDニュース等にダイジェスト版の掲載を検討する旨報告。

◆事業委員会（阪井）

オリジナルMY CHAIRを創るに18名の応募があり現在図面を作成中で、2月頃上海研修を行うと報告。

◆会員プロモーション委員会（中川）

JID主催の第1回OZONE展を企画、都市基盤整備公団後援による「インテリアデザイナーとつくる住まい展」を決定(2002年2月)。現在ワーキンググループで実施内容を都市基盤整備公団と折衝中と報告。

◆選考委員会（泉）

JID賞はインテリアスペース部門賞4点、インテリアプロダクト部門奨励賞1点、学生賞部門部門賞2点、奨励賞1点と決定。2002年1月17日～29日OZONE6フロードサイドスクエアでJID賞展を行うと資料にて報告。

(2) AIDIAアジアインテリアデザイン学会特別委員会設立準備会に関して

日本、韓国、中国の3カ国が2000年5月韓国ソウルにおいてアジアインテリアデザイン学会（AIDIA）を結成、2002年10月に予定される中国、北京シンポジウムに参加を各デザイナー団体に呼び掛ける。（須長）

(3) 平成13年度中間監査報告

平成13年度中間監査について川上、中川両監事より報告。

(4) 平成13年度収支状況報告（10月末日現在）

平成13年度収支状況報告（10月末現在）について事務局より報告。

(5) 役員及び選考委員選挙結果

役員及び選考委員選挙結果につき事務局より報告。

(6) その他

今期理事会の総括・反省を次回理事会で行う、又次期理事会への申し送り事項を鮮明にすることを全員一で了承した。

・次回理事会予定

平成13年度年第5回理事会 2002年1月24日（木）
10:30～12:30

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記5件について説明。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「第53回東京インターナショナル・ギフト・ショー・春2002」

2002年2月26日(火)～28日(木)

主催 (株)ビジネスガイド社

◎「第2回『木になる徳島』東京展」

2001年12月8日(土)～10日(月)

主催 徳島市、(株)アワード

◎「第11回クラフトマンズヨコハマ展『海の見えるくらし』」

2002年4月5日(金)～4月7日(日)

主催 クラフトマンズヨコハマ

◎「第27回大阪インターナショナル・ギフト・ショー・春2002」

2002年3月13日(水)～15日(金)

主催 (株)ビジネスガイド社

◎「ユニバーサルデザイン展2001」

2002年1月31日(木)～3月5日(火)

主催 東京ガス(株)、リビングデザインセンターOZONE

第2号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記入退会16件について説明。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・入会(1件)

萬田 恭平(関東) 推薦人:岡部 史子・酒井 忍

正会員・退会(14件)

増本 敏治(関東) 建部 卓(関東) 八代 美智子(中部) 石井 信義(九州)

以下定款8条2項により退会処理

大山 芳弘・剣持 和之・佐々木 陽子・佐藤 敬・

宮川 恵子・前岡 佐紀子・諸富 幸成(関東)

梅本 正志・川村 章夫(関西) 田村 悠(中部)

賛助会員・退会(1件)

(株)コミュニケーション科学研究所(関東)

定款8条2項により退会処理

第3号議案 議事録署名名人選任の件

議長は、吉良ヒロノブ、佐々木恵子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

役員・選考委員選挙報告

平成14年度、15年度役員及び選考委員の選挙報告が選挙管理委員会より来ていますので、報告いたします。新役員、新選考委員につきましては、すでに事務局ニュースにてご報告いたしておりますのでそちらをお読み下さい。

役員

1. 出席委員

内田正雄(委員長)、高木久美、田口康之、大野瑤子、中 穆子、大野瓊子、(以上6名)

2. 開票状況

有権者	484人
投票数	271票(投票率59.99%)
有効投票	265票
無効投票	6票
無効の内容	定員数を超過して記載3票 白票 3票

3. 開票結果(得票順)

A-1 理事(関東)

木村戦太郎(92票)、吉良ヒロノブ(77票)、岩倉榮利(65票)、中川帛子(58票)、秋山修治(57票)、泉修二(51票)、李 泰久(50票)、森谷延周(46票)、阪井良種(43票)、白石勝彦(42票)以上定数10名次点

長岡貞夫(41票)、福田友美(38票)、清水忠男(35票)、藤村盛造(34票)、川上玲子(33票)、川上信二(32票)、山本棟子(30票)、大野美代子(27票)、浅野盛治(22票)、須長壮太郎(22票)、入江 満(21票)、山下博之(18票)、井上 昇(18票)

A-2 理事(中部)

熊谷正信(31票) 以上定数1名

次点

安藤 清(25票)、宇賀敏夫(18票)、関 里繪子(12票)

A-3 理事(関西)

小宮容一(47票)、八十常充(42票)、喜多俊之(39票)

以上定数3名

次点

佐々木恵子(36票)、山崎 晶(30票)

A-4 理事(九州)

山永耕平(45票) 以上定数1名

次点

鐘ヶ江茂則(13票)

B-1 監事(関東)

川上信二(23票) 以上定数1名

次点 白石勝彦(22票)

B-2 監事(中部、関西、九州)

中川千年(10票) 以上定数1名

次点 夏原晃子(7票)

選考委員

1. 出席委員

内田正雄(委員長)、高木久美、田口康之、大野瑤子、中 穆子、大野瓊子、(以上6名)

2. 開票状況

有権者 484人
投票数 274票 (投票率56.6%)
有効投票 266票
無効投票 8票

(注) 無効の内容 定数以上を記入したもの2票

白票 4票
投票用紙以外の用紙 2票

3. 開票結果 (得票順)

泉 修二 (52票)、岩倉榮利 (52票)、喜多俊之 (51票)、清水忠男 (51票)、白石勝彦 (38票)、長岡貞夫 (38票)、大野美代子 (36票)、木村戦太郎 (34票)

以上定数8名

次点

島崎 信 (30票)、川上信二 (28票)、吉良ヒロノブ (26票)、森谷延周 (23票)、松本哲夫 (23票)、近藤康夫 (22票)、川上玲子 (20票)、夏原晃子 (20票)

選挙当選辞退者よりのコメント

今回の選挙で当選されましたが、辞退をされた方よりのコメントが来ておりますのでご報告いたします。

役員、選考委員辞退

私、今回の理事および選考委員会委員の就任を、辞退させていただきます。年齢や体力については年老いたとはおもっておりませんが、十数年連続での役員就任は他の会員各位あるいは協会の発展のためにも芳しくないことと思考いたしました。

選挙に際し私を応援してくださった方々には感謝いたしますと共に、大変ご迷惑をお掛けすることになりましたことを深くお詫びいたします。

なお、会員として皆様と共に今後も協会発展のため努力する所存ですので宜しくご指導をお願いいたします。

泉 修二

役員 辞退

ご推薦頂いた方々には大変申し訳ありませんが、職務を全うできる状況にありませんので、辞退させていただきます。

李 泰久

選考委員 辞退

大勢の方々のご推薦をいただいたのに恐縮ですが、2期連続で委員をつとめさせていただいたので、今回は、ちょっとお休みをいただき、できれば応募する側に回ってみたいなどと考えております。

清水 忠男

樋口 治さんを悼む

名誉会員 川崎 浩

樋口さん

私は昭和26年に大丸に入った、樋口さんの知遇を得たのはそれからである。焼失した旧国鉄京都駅の再建が安井建築事務所によりなされた。大丸も別注家具を少し納めた(良い部屋は高島屋と宮崎木工)。そして、国鉄の係りの人に飾り棚の原寸図を見せられた。それが樋口さんの手になるものであった。「ちょっと借してもらえませんか」厚かましくも会社に持ち帰り「オーイ、皆んな見て見イ、原寸図とはこない書くもんやで・・・」それは工作図・詳細図・納まり図では無い、一つの作品として見る者に感動を与えた。50年程前のことであるが今もよく覚えている。



奥さんのお通夜の席で樋口さんを囲んで慰めるでもなくただ酒を飲んでいた。「僕は酒が好きやから飲み過ぎるように貰いもののエエ酒は家内がすぐにどっかに仕舞ってた、それを探し出したものです。もうこれからは探す手間は要らんわけです・・・」少し涙ぐんでられた。

1985年日中インテリア交流団で天津を訪れた時「この辺に高島屋の出張所がありました。その辺に鐘紡の支店があり亡くなった家内はそこに勤めていたのです・・・」恋愛結婚であることは聞いていた。

1958年8月 故剣持勇さんが来阪され室内設計家協会(同年11月発会、69年に社團法人となりインテリアデザイナー協会と改組)の設立準備の経緯と、関西地区での参画の説明である。私は記録係として末席にいた、場所はお座敷テンブラの店「いとう」、その後翌年5月の支部発足まで建べ20回以上の会合が持たれた。人数に応じ、議案に応じ、来客があればそれに対し、それぞれの会合場所を指定される。ロシヤ料理店、小料理屋の離れ、そしてクラブ等、今で言えばグルメガイドブックそのものの、立ち飲み屋しか知らない私は思った「デザイナーと言うのは飲み喰いする処ぐらいはよく知っていないといけない商売である」と。その後だいたい勉めたつもりだが当時の樋口さんには及ばない。

樋口 治さんの略歴

1916年大坂生まれ (株)高島屋設計部長、京都工芸繊維大学教授を歴任 '39あるぜんちな丸 '58同二世、'52旧国鉄京都駅、新大阪駅の貴賓室・特別室 '70万博ガスバビリオン基本計画 '96勲五等瑞宝章 '99国井喜多郎産業工芸賞その他多数の作品と授賞がある。

2001年永眠85才

代議員選挙報告

関東事業支部選挙管理委員会 委員長 川村 吉司

平成14年・15年度代議員選挙の開票は、11月8日(木)午前9時30分より本部事務局で行った。その概略を下記に報告する。

1. 出席委員

(委員長) 川村吉司

(委員) 内田正雄、大野瑤子、中 穆子、大野瓊子

2. 開票状況

有権者数 343人

投票数 187票 (投票率54.5%)

有効投票 184票

無効投票 白票2票

定数を越えたもの1票

3. 開票結果

	氏 名	会員番号	票 数
1	吉良ヒロノブ	0462	96
2	川上玲子	0227	60
3	長岡貞夫	0316	54
4	岩倉榮利	0451	54
5	栗原満直	0736	51
6	阪井良種	0390	50
7	秋山修治	0192	42
8	藤村盛造	0480	40
9	山下博之	0654	39
10	木村戦太郎	0255	38
11	白石勝彦	0089	36
12	森谷延周	0150	36
13	中川帛子	0247	35
14	泉 修二	0017	34
15	川上信二	0032	33
16	福田友美	0298	33
17	井上 昇	0724	31
18	入江 満	0734	29
19	今崎 務	0181	28
20	中田重克	0368	28
21	須長壮太郎	0723	28
22	山本棟子	0295	27

	氏 名	会員番号	票 数
23	大野美代子	0341	26
24	佐藤健一	1157	25
25	寺原芳彦	0463	24
26	下島資子	0468	24
27	清水忠男	0484	24
28	村口峯子	0412	23
29	斎藤武行	0579	23
30	李 泰久	0643	23

以上定数30名

31	佐戸川 清	0260	22
32	浅野盛治	0638	22
33	島崎 信	0638	20
34	北原 進	0178	18
35	垂見健三	0200	18
36	わたなべひろこ	0216	18
37	田辺麗子	0162	17
38	中川千早	0619	17
39	金杉哲男	0839	17
40	安藤 孚	0222	16
41	峰尾 武	0154	15
42	長堀映司	0375	15
43	山本其観代	0384	15
44	杉 富士雄	0416	15
45	岡部史子	0476	15
46	青木 猛	0690	15
47	瀬尾 清	0808	15
48	日方一城	0413	14
49	鎌田博子	0847	14
50	宇田比呂美	0848	14
51	鳥井貴正	1027	14

以下が平成14・15年度代議員の方々です。

青木 猛、秋山修治、安藤 孚、泉 修二、岩倉榮利、宇田比呂美、岡部史子、鎌田博子、川上信二、川上玲子、木村戦太郎、吉良ヒロノブ、斎藤武行、阪井良種、佐藤健一、下島資子、杉 富士雄、瀬尾 清、田辺麗子、寺原芳彦、鳥井貴正、長岡貞夫、中田重克、長堀映司、峰尾 武、村口峯子、森谷延周、山下博之、山本其観代、わたなべひろこ

住民がつくった「小江戸・川越」再発見

関東事業支部 事業推進委員会 深谷 明恵

川越は学生特代の昔から、いずれそのうち訪れたい街と思いつつも長い年月がたってしまい、10月12日の「建築と暮らし再発見シリーズ3」に参加してようやく宿題を果すことができた。

午前中、表層的な街の輪郭を観光客として楽しんだ後、集合場所の喜多町会館に着くと、いきいきとした笑顔の男性が迎えて下さった。今回の水先案内人、川越市役所都市計画課の荒牧氏だ。他の行事と重なり参加者は16名と少なかったが、「川越まちづくり」の行政側の推進役である氏が、資料を元に丁寧に語るまちづくりの変遷は、建築やデザインの仕事に関わるものには大変興味深い内容で、全員熱心に聞き入った。

江戸の城下町から明治の商業都市としての繁栄を背景に造られた店蔵や蔵造りの商家、大正時代の近代洋風建築の並ぶ街が、車社会に対応できず衰退の一途をたどる中、地区住民が主体となって現在の生活を向上させながら、商業も活性化させ、歴史的風致を維持するという総合的街造りを成功させ、グッドデザイン賞も受賞するという稀有な例は、今後、他の地域の「伝統的な日本のまちづくり」のよいモデルとなるであろう。

レクチャーの後、荒牧氏に導かれ歩いた街は、江戸や明治にタイムスリップし、その時代そこで生活する人間になったようにワクワクドキドキの連続。広済寺では文化財の修理現場、大沢家、昔の芸者置屋、長屋、市が購入した関東大震災で傾いたままの華茶屋、原家、アールデコのステンドグラスの残る百貨店跡、山崎家の奥の土蔵と塗籠めの母屋など、川越を愛してやまぬ温かな心と蘊蓄に富む説明で、普通ではなかなか体験できないドラマチックで面白い見学会となった。

参加者全員が不良少年の昔に戻ったように、好奇心で顔を輝かせ、重厚な箱棟や鬼瓦や黒漆喰の美しさに感嘆し、元気いっぱい歩き回り、交流を深め、JID会員である満足感を心より味わった秋の1日だった。

北海道の間さん、山形の信夫さん、遠路はるばるの参加ありがとうございました。

JID
NEWS

中部

2002年を迎えて

中部事業支部長 安藤 清

インテリア世紀も実行年を迎えました。今年の中部は明治村に保存されている貴重な建築遺産の中でも筆頭に上げられるフランク・ロイド・ライトの帝国ホテルの空間を飾っているステンドグラスの修復に、会員である金田女史のご多忙な中でのボランティア活動により今回の企画展が実現しました。ライト館の空間の中で現代のインテリアデザイナーとのコラボレーション新世紀ミニデザイン博「F・L・ライトとの対話」として偉大な先達に教えを乞う企画で新春をスタートいたします。3/24～4/7是非ご覧ねがいます。この企画も行く先全国の会員の皆様に募集をおかけする予定です。

中部のもの作り地域にふさわしい「ものづくり探索」を今年も5回目を企画中です。当地も会員減少傾向の中このように地域に密着した企画が存在アピールにつながることである。やくにも会員拡大キャンペーンのみでは大変むづかしい時節です。最近の関西事業部の活動は眼を見張るものがあり、今後の協会のあるべき姿を予感できます。

中部事業支部会員展

JID中部事業支部展示発表会実行委員 池田 慎司

愛知県犬山市にある博物館明治村が保存しているフランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテルを会場に、JID中部事業支部の会員展が3月24日（日）～4月7日（日）に行われます。現在17名の会員がエントリーしています。「F・Lライトとの対話」という共通のテーマの中で、日頃皆さんが考えておられることをどのように表現されるのかをご期待下さい。それぞれの得意な部分が様々な形で表現されます。何れ皆さんのお手元にDMが届くかもしれません。20世紀前半の偉大な建築家であるフランク・ロイド・ライトの作品の中でどのような展開になるのかが興味深いところです。機会がありましたら是非ご覧下さい。

博物館／明治村／愛知県犬山市字内山1番地

TEL:0568-67-0314/FAX:0568-67-0358

第2回[ECHO]賞表彰式

関西事業支部 佐々木 恵子

第2回[ECHO賞]企業デザインコンペの受賞者12名の表彰式が1月24日と29日にそれぞれ東京と大阪で行われました。東京では、JID賞贈呈式のあと恒例のNEW YEAR PARTYの席をかりて、優秀賞4名、奨励賞2名、学生賞1名の計6名（優秀賞と学生賞は徳田純一ユースの会会員のダブル受賞です）の方々に贈られました。宴たけなわとあって周囲のざわめきもありましたが、関東在住の6名の受賞者の皆さんには八十関西支部長から、賞状と賞金が手渡され、来賓の方や会員から大きな拍手がおくられました。同時に発表された受賞作品パネル見た人たちから[ECHO賞]応募者の真摯な態度と賞そのものへの正当な評価がなされたことも報告いたします。

続いて29日夜、今回のスポンサー大光電機様のショールームで、残りの受賞者6名のみなさんの表彰式とお祝いのパーティーを行いました。九州から出席の瀬戸聡さんををはじめとする奨励賞の5名と学生賞のもう1名（JID-ACT会員）の計6名です。支部長と清家部会長の挨拶のあと、大光電機株式会社の井上茂之常務取締役からコンペの成功を認めていただいた旨のご挨拶があり表彰に移りました。大光電気のみなさんとJID会員、ECHO誌のスポンサーあわせて約30名が見まもるなか八十支部長から賞を贈られた皆さんが、一言ずつではありませんが作品についてコメントされる場面もあり、大いに盛り上がった式となりました。加藤力審査委員の総評はECHO誌に詳しく載っているのでそちらをご覧ください。

式のあとは大光電機さんによるパーティーが続き、受賞者と参加者が一緒に飲んで食べて、おしゃべりして6時半からの3時間がまたたくまに過ぎてゆきました。式



東京会場受賞式



大光電機での受賞式

からパーティーまでとおして司会をしてくださったのは大光電機経営戦略室の中尾晋也部長でした。ありがとうございました。

第2回のコンペを終えていま、やっとここまで来たという思いと、次へ生かしたい大きな反省をもって、新たな挑戦を決意しています。

喜多俊之さんの新しい本

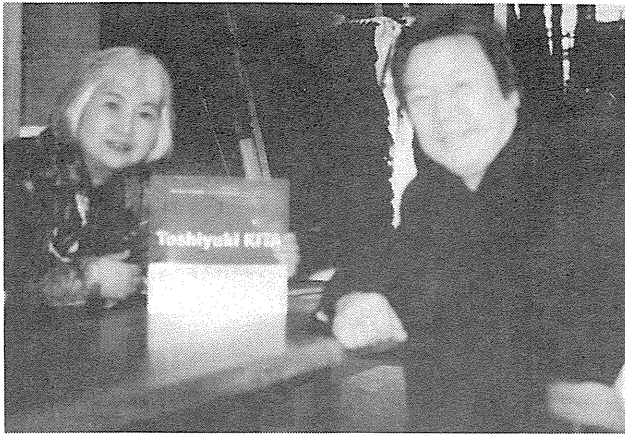
夏原 晃子

喜多俊之さんの新しい本「The Soul Of Design-l'anima del design Toshiyuki KITA」が2001年12月1日に刊行され、その出版記念パーティーが2002年1月28日、大阪の帝国ホテルで開かれました。喜多さんの日頃のお付き合いの広さから各界からの発起人を始め参加者は250名にもなったにもかかわらず、アットホームで楽しい会になったのは、喜多さんの暖かいお人柄によるものが大きいと、お客様の祝辞にもたびたび語られたとおりです。

昨年、ミラノで開かれた同名の展覧会のまとめのようなもので、この後名古屋、シンガポール、中国、イタリア、ドイツで、この日本発のと言うより、喜多俊之発の展覧会が続くそうです。

ここには1967年発表の[SARUYAMA]に腰掛けている、いたずらっ児のような喜多さんから今、両手を広げて新しいデザインと伝統的な手法を包み込みながら自身の魂を見つめているような円熟した大人の彼がいます。

1970年に創られて今もベストセラーの[TAKO]、1980年発表の服を着替える[WINK]には思わず「あっ！椅子が居る」と叫んでしまい、各地の美術館のパーマネントコレクションに入っているのは周知です。1986年の[WAJIMA]漆シリーズは今も増殖を続け、[CEREMONY SPACE]の緊密な空間は世界中が目を見張りバリ、ベルリン、ミラノなどの展覧会の文字どおり目玉でした。他にも身の回りの[REPRO]シリーズや腕には



めてみたい[TWO POINTS WATH]、街角で出会いそうな[WALK]、[AKI.BIKI.CANTA]は集い、楽しい[DODO][KUKAI][KONPIRA]、パーマネントコレクションの[MIRAI][SORA][TOKI][YUME][TATAMO]などの椅子達、最近作の[AQUOS LCD TV]まで枚挙にいとまはないが、そのネーミングにもうかがえるようにいずれにも人格を与えられています。「プロダクトデザインに魂をいれた表現一形から何かメッセージを贈り続けたい」と語る喜多さんの[SARUYAMA]に腰掛けている時から同じ魂と同じ眼にあらためて驚きました。

東西の伝統と新しい技術のバランスに魂を込めたチャームなデザインの贈物は、グローバルに駆け巡るのを期待しています。

第1回ECHOプロジェクト 「府中デザイナーズBOX」が始まりました

関西事業支部 福岡 育子

広島県府中は、桐製品産地として歴史も古く、今では婚礼タンスの一大産地となっています。しかし、近年の

生活様式や経済環境の変化に伴い、その生活形態も、総合的な家具生産地への転換も含めて、変革を求められているのが現状です。

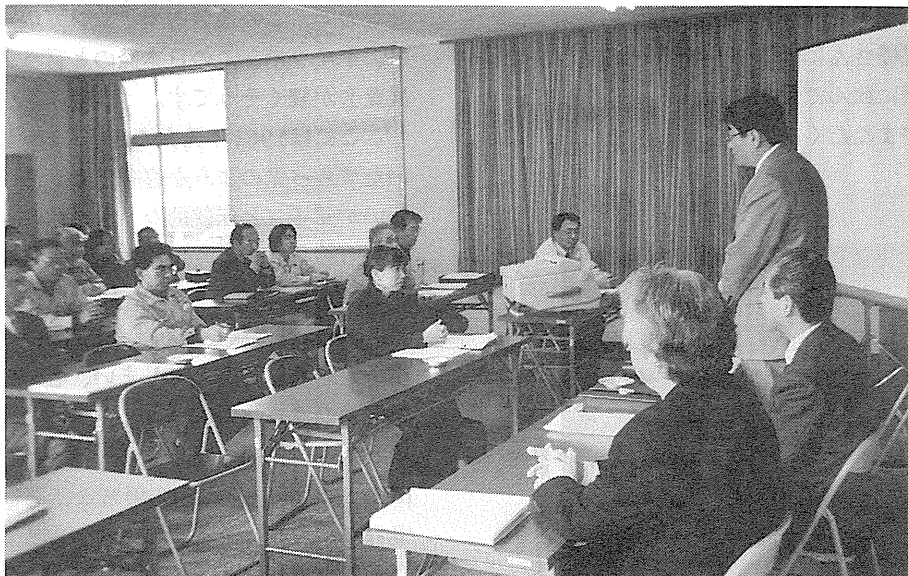
そこで、「府中が変わる。新生活者家具創造」をテーマに、「婚礼タンスの府中」のイメージ一新を目指して、'99年府中家具工業協同組合の依頼で、JID関西事業支部会員・千田要宗氏とクリエイティブ飛行船によるプロダクトタイプのデザイン及びプロデュースが始まりました。そして、その延長として、今回組合各社とJID関西事業支部会員デザイナーのコラボレーションによる、展示会（毎年5月開催）に向けての家具作りプロジェクトが誕生し、「府中デザイナーズBOX」と名付けられました。

今回のプロジェクトは、新規性に富んだ製品の開発を目的とし、各メーカー企業1社に1人のデザイナーが対応すること（今回参加メーカーは12社）、そして商品開発に併せて広報・展示活動にもデザイナー自身が積極的にかかわっていくことで、販売促進にも参加・協力することが、特徴としてあげられます。

昨年11月初旬に応募者（23名）へのオリエンテーションが行われ、それに基づいて府中サイドによるデザイナー指名。その後、府中での第1回全体会議を経て、現在各メーカーとデザイナーの間で打合せが続けられています。時間的にかなり厳しいスケジュールですが、月一回程度のペースで開かれる全体会議では、5月15・16日の展示会に向けて、各デザイナーからの幅広い提案や発表、双方からの活発な意見交換が行われ、府中の方々の熱意と期待が、ひしひしと伝わってきます。

5月には、是非「府中家具展示会」にご来場下さい。

※なお、このプロジェクトはECHO賞と同じく、関西事業支部「機関誌ECHO」の発行基金づくりの一環として、「ECHOプロジェクト」事業として運営されています。



21世紀の大学教育を訪ねて

九州事業支部 福岡地区委員長 徳久 豊

21世紀最初の年も1月足らずになった2001年12月1日、九州事業支部の例会としてJID理事九州産業大学デザイン学科山永教授の研究室を訪ねました。

私達は現在、20世紀の学校教育で学んだモダニズムと大きく変わった社会価値観／デザインに対応を迫られています。

そこで高等教育の現場を覗きキャンパスを歩いて、くたびれた頭に新鮮空気を吹き込もうと山永氏に、無理矢理お願いをした例会でした。

当日はJID会員を始め、福岡インテリアコーディネーター協会員・九州産業大生・九州造形短大生・他色々な団体の方が予想を越えて多数参加され、お世話が行き届きませんで申し訳ありませんでした。

内容は、何度もイギリスを訪ね2001年も9月までイギリスビクトリア・アルバート美術館で研究・家具工房でウィンザーチェアを製作された山永氏の、愛用の道具・コレクションを拝見させていただきながら、スライド・ビデオを交えて留学の成果を披露して頂きました。

休憩をはさんでの2時間は見て・触って・座って・裏を見て・質問してと、貴重な時間となりました。

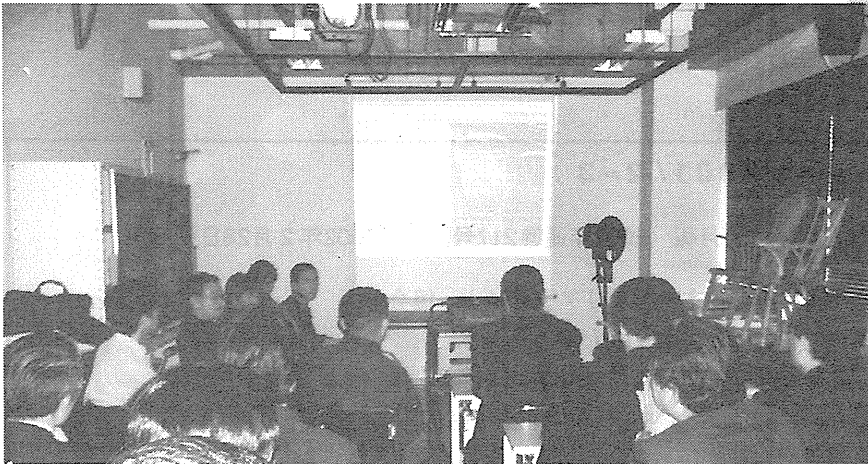
その後に、夏に竣工した九産大芸術学部の新棟やアトリエ・研究室を見学、我々の学生時代と様変わりしたキャンパスライフに、時の流れを感じさせられた時間でした。



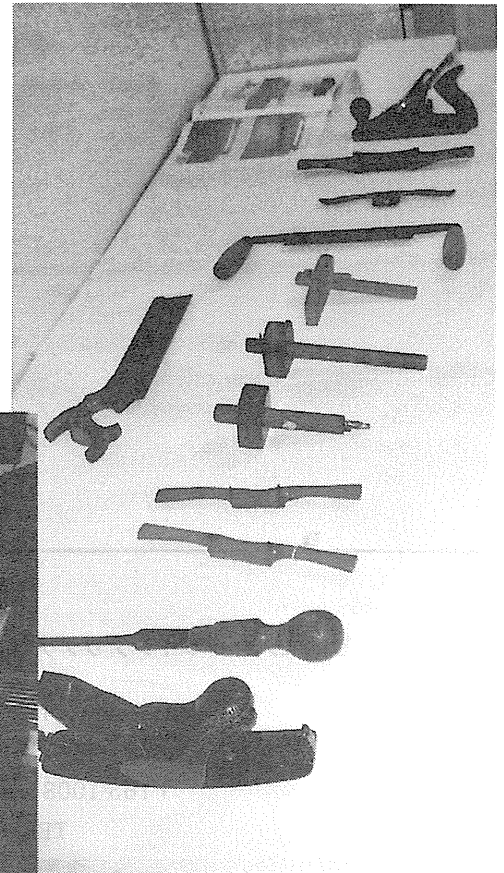
見て、触って、座って、裏を見て

大学での講演・見学が終了した後は近くの居酒屋で懇親会を開催、所属は違ってもデザイナー同志すぐに打ち解け“現在の厳しいデザイン活動”も酒の肴に社長や代表、管理職も駆け出し時代に戻った気分で青白き意見を吐き予定時間を越えて閉会と成りました。

最後に、多忙の中快く講演・キャンパス案内をして下さった山永氏に深く感謝いたします。



スライド、ビデオを交えての講演



山永氏愛用の道具達

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

- 新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。
- 正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
まん た きょう へい 萬 田 恭 平 会員番号 1200 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	株式会社三和 東京都大田区久が原5-3-20 〒146-0085 TEL 03-5748-2022 FAX 03-5748-1014 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台43-7 〒240-0067 TEL・FAX 045-333-1966 岡部 史子・酒井 忍
かく た ひで あき 福 田 秀 明 会員番号 1201 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	三井デザインテック(株)リビングデザイン事業部 東京都渋谷区神宮前4-3-2 〒150-0001 TEL 03-5411-8625 FAX 03-5411-8622 東京都渋谷区神宮前5-22-10 〒150-0001 吉良 ヒロノブ・秋山 修治

2001/2~3

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (2002年通巻217号) 2002年2月28日発行

発行所/社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人/木村戦太郎

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集/本部情報委員会 制作/be-one